研究タイトル：

近世スウェーデンの鉱工業と経済政策

氏名：	根本　聡／NEMOTO　Akira	E-mail：	nemoto@asahikawa-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	文学修士
所属学会・協会：	日本西洋史学会，国際商業史研究会，日本ハンザ史研究会，比較都市史研究会，関西中世史研究会，バルト＝スカンディナヴィア研究会		

キーワード：	世界史，北欧近現代史，外交史・国際関係史，経済史，都市経済学
技術相談 提供可能技術：	・スウェーデン・北欧に関する講演 ・北方文化圏に関する共同研究

研究内容：スウェーデン製鉄業と商業史

ヨーロッパの「北」から日本の「北」を考える

研究分野は北欧近現代史で、16世紀から18世紀の近世スウェーデンの政治と経済が主な対象である。しかし、スウェーデンの専門家はわが国ではまだ少ないので、福祉や環境、教育など、こんにち世界の注目を集めているスウェーデンの社会政策の起源を求めて、中世史から現代史にも関心を広げている。

北欧世界の中央に位置するスウェーデンは、バルト海に臨むため、この海洋を通じてイギリス・オランダ・フランス、対岸のドイツ、ポーランド、バルト諸国、ロシアなどと、政治的にも経済的にも密接な国際関係を築いてきた。ヨーロッパのなかで北欧を考える際、鍵を握るのがスウェーデン鉄である。森林の奥深くで生産された高品質の鉄は、抜群の水路網を利用して、港町ストックホルムに運ばれ輸出されていった。日本でいえば江戸時代に、ストックホルムは首都となり、スウェーデンは国際社会に軍事大国として躍り出るのである。

このように、スウェーデン鉄の生産から流通の歴史を見ると、生業・労働のあり方、農村と都市の関係、工業化にともなう経済政策や産業政策だけでなく、鉄鉱石と燃料源をめぐる資源・環境問題や、その鉄が陸軍（大砲）や海軍（艦隊）の資材であることから軍事問題や外交政策へと広がり、先進的な試みを随所に学ぶことができるわけである。辺境の小国でありながら、高い経済力を維持し、外交や環境問題、教育政策において世界中に存在感を示しているスウェーデンから学ぶべきものは、同じように寒冷な北海道に住む私たちにも多々あるようにおもわれる。

授業では世界史教育にかかわるため、スウェーデンや北欧の事例を題材にするとともに、外界との関係史にも目を配っている。なかでも、ヒト・モノ・カネ・情報の動きを扱う商業史に大きな興味を抱いており、日本とヨーロッパとのあいだの広義の交通史の構築を目指している。

（写真は上から、エステルビー「製鉄工場村」；スウェーデン製「板鉄」；ストックホルム旧市街の「鉄広場」）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	